



エコキュートがやってきた

設置して3年、平均気温が氷点下の冬も快調

高橋一彦邸（札幌市）

3年前に新築した北海道札幌市の有限会社北一タカハシ建設社長の高橋一彦さんのお宅は、オール電化住宅です。建築計画の中で考え抜いた課題は暖房と給湯でした。冬の札幌は降雪量が多く、市内の平均気温は12月〜2月まで氷点下を記録します。特に1月の平均気温はマイナス4℃で、マイナス10℃まで下がることも珍しくありません。

この寒さの中でもお湯は大丈夫か

暖房は、蓄熱式電気暖房器を導入し、機器を食堂、居間、和室などの居室だけでなく、玄関、プレイルームなどにも設置して万全を期しました。給湯はエコキュートを採用することにしました。



①落ち着いた紺色のガルバリウムと明るい色の塗り壁仕上げを組み合わせた印象的な外観
②エコキュートの室外機
③エコキュートを設置した1階洗面所。シンプルな角形ですっきりと収まっている

高橋さんのお宅は、1階に食堂、居間、和室を配し、2階に寝室、子ども部屋、プレイルームなどがレイアウトされています。2階にもお風呂、洗面所があり給湯が必要であるため、エコキュートは高圧力型を採用しました。入居直後、まず厳しい冬を迎えても、エコキュートは快調で、性能についてまったく不安のないことが証明されました。

高圧力型を採用2階浴室も給湯

「エコキュートを導入することについては、正直に言って、この寒さの中できちんとお湯が出るのか不安な部分もありました。しかし、ヒートポンプを利用して大気のお湯を沸かすエコキュートの高い性能に驚き、操作の簡単なことや、割安な夜間の電気を使用するため電気料金が格段にお得であることなどの説明をしてもらって、納得しました。さらに、環境にやさしい給湯器であることもわかり、設置することに賛成しました」と奥さん。

北海道のような寒冷地の給湯でも、安心して任せられることを実感できたのです。機器の操作も、フルオートタイプなのでお湯はりから保温、足し湯までスイッチを押すだけ。その便利さに感心されたようです。そして電気料金メニューは、夜間の電気が安く使えるハドリーム8Vを契約。高橋さんは3年間の経験から「夏冬ともに、前の家の時より安くなっています」と、満足そうでした。

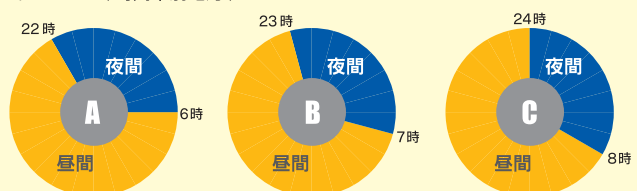


家族で使える広々としたキッチン。プロの厨房をイメージしてステンレスでスタイリッシュに



高圧力型のエコキュートなので2階に設けたお風呂へもラクラク給湯

北海道電力の電気料金メニュー ドリーム8（時間帯別電灯）



夜間時間帯は3パターンからお選びいただけます。